第4回庁舎建設調査審議会 会議録（要旨）

日時 平成22年10月28日（木）
午後1時30分～午後4時30分
場所 四万十町窪川四万十会館
多目的室（会議室）

1. 出席委員

大谷英人、川村英子、谷渕大輔、宮本則夫、山本桓、利岡守、田邊憲一、藤田俊宏、秦泉寺智早、沖本英城、長谷部恵美、中越功雄、谷崎直子、今城守政、吉岡真佐人、長森佐和子、森太亮、山本真次、笹岡當實、芝正三、松下信幸、西宮正衛

（敬称略） 計23名

2. 欠席委員

松井陽明、森田修一、山本緑

（敬称略） 計3名

3. 事務局

森政策監、川上総務課主査、井口総務課主任

4. 会議内容

以下、会議内容の要旨を記述する。

事務局：今回で第4回目になるが、委員会を開催したいと思う。本日の会議だが、山本緑さんと消防の森田所長さん、松井陽明さんがそれぞれ公務で欠席ということになっている。それから、今日午前中だが、議会の全員協議会があった。そちらの方でも、現在の候補地についての課題点等について活発な議論がなされたところである。今日このあといつものように、大谷先生に会議の進行をしていただくのでよろしくお願ひしたい。

大谷会長：もう4回目になる。1回目からずっとワークショップでやってきているが、全体のスケジュールでは今日、候補地を決めようという順番になっていたが、ちょっと変更したいと思う。というのは、前回3回目ですんなり施設が出てきたので、それがどのくらい必要になるか、どんなつながりがいいか、というのをまずはモデルとして検討してみよう。その中で次回、最終的にこの審議会として候補地はこの辺がいいだろう、というふうにしようと思っている。今回は、第2回に候補地について問題点が出されたので、その問題点を解決するためにはどのくらいどういうことをしたらいいのか、そしてそれはどれくらい費用がかかるのかなどをご紹介して、第3回目に出てきた、併設した方がいい、あるいは隣

接・近接した方がいい施設が出てきたのはどんなものかというのを再度おさらいして、具体的に配置してみるとどんなことになるのかということをお話したいと思う。少し作業が多いが、できあがるとなかなか楽しいのでご協力をお願いして、一緒にしていただきたいと思う。パワーポイントで説明したあと、午後1時40分ぐらいに説明をして、2時ぐらいから具体的な作業に入っていただきたいと思う。今日はできれば4時半前までには終わらせたいが、ちょっと時間がかかりそうなので、4時半まで頑張っていたいただければと思う。時間がないので、説明をさせていただければと思う。

佐藤氏：それでは、説明をさせていただく。今まで3回ワークショップを行っているが、その結果と課題点を整理したので、お話したいと思う。まず第1回だが、皆さんと新庁舎への想いと期待を話し合っ、それをまとめる形で最後にスローガンを決めた。まずAチームは、住民のための庁舎。Bチームは、町民にとって身近で、やさしく、頼れる庁舎。それからCチームは、町民に愛される庁舎。Dチームは元気で皆にやさしく目立つランドマーク庁舎。Eチームはみんなの庁舎、となった。2回目は、具体的に皆さんと、建設候補地の検討と評価について話し合った。Aが現庁舎地、Bが窪川駅の西側、Cが東側、Dが緑林公園で、この4つについて皆さんとそれぞれ評価とどういう問題点があるのかを話し合った。その結果を少しまとめている。

まず、一番評価が高かったのは、緑林公園になる。ただ、この中で課題点が出てきている。中心地から遠い、緑林公園の駐車場をつぶしてその部分に建てるので新しい代替の駐車場が必要ではないか、新たな交通網の整備も必要ではないかというお話があった。

次に点数が高かったのは、窪川駅西側になっている。ここについても皆さんから、敷地に奥行きがなく狭いのではないかと。前の通りが少し狭いので、交通の集中により駅前が渋滞する可能性があるのではないかと、という指摘がある。(窪川駅の西側と東側の) この二つは点数の差はほとんどない。これ(窪川駅東側)は、町有地がないので土地取得に費用がかかるのではないかと、駅裏と前とを歩道橋などでつなぐ必要があるのではないかと、それから、前面道路からでこぼこという形になっているので建物が見えにくいのではないかとというお話もあった。(東側の敷地は)前より少し形状が変わっている。これは、役場がJR四国の本社へ行って打合せし、この(候補地から除外された)部分は、非常に重要な駅特有施設があるのではという事で、変更がある。

現庁舎地については、敷地が狭い、道路に対して非常に入口が狭いので、そこを広げる必要があるのではないかと、建設期間の2年程度仮庁舎が必要だという課題もある。その課題を整理するためにどうしたらいいかについて。進入路を広げた場合、表で書いてあるように、土地の造成に、一段高くなっている後ろの鉄道の敷地を平地にするために、やり方とかの仮設工事を行わなければならないということ、面積の割合に、4,340万程度かかるのではないかと、進入路の部分で、約1千820万程度。それから仮設。これも例えばこの建物の今使っている面積分を、プレハブとかそういうものでリースした場合、1億5,980万程度かかる。これは、例えば他に公共の建物で空いている所とかの耐震性を調べて、少しでも経費を安くするという考えもある。そういうところで、プレハブでやった

場合を書いている。敷地が狭いので、その分の駐車場として今 53 台分ここに入れても、不足する。それを計画する時、1 台あたり約 25㎡程度必要なので、1,325㎡程度この場所の近隣に土地を見つけるか、例えばこの建物の下に地下駐を作った場合、地下工事になるので非常に高くなる。これが 5 億 3 千万ということで、この事業費でいくと約 7 億 5 千万、この土地を準備するのにこの程度の事業費がかかる。

それから、西側については、一部町有地になっているが、J R と J A の土地になっている部分が、約 4,110 万程度、土地取得にかかっている。これは路線価をそのまま使った場合。ここも駐車場が不足するので、これを近隣に見つけるためには、66 台分、1,610㎡分を、このそばの土地に見つけるか、たとえば、それを地下駐車場にした場合、約 6 億 6 千万、お金がかかる。

東側については、J R と J A の、建物もある。鉄道の特有施設もあるので、それを補償するのに、4 億 1 千 360 万。その場合、約 28 台分の土地が不足する。この近隣に見つけるか、それを例えばの話、地下駐車場にした場合、2 億 8 千万程度かかる。

それと緑林公園だが、今この敷地に、駐車場のところを利用しながら、他の山の部分を切って敷地を作った場合、その分の代替地としてこの近隣に設けた場合、前の田んぼを利用したり、それから、アプローチ道路、これは後でまた説明するが、これを設けた場合、用地は、町有地と県有地なのでその費用はいらぬが、造成として、2 億 2 千 960 万、進入路が 2 億 2 千 840 万。それからこの代替地としての駐車場の取得と造成が、2 億 100 万になる。そういう形で整理して、皆さんのほうから結果として出てきたのが、駐車台数の確保や木造庁舎の可能性などで、敷地に余裕のある D 案の評価が高くなった。しかし、ここは、町から離れているということで、市街地と直接結ぶ道路の建設や市街地とのアクセスのバスが必要ではないか、というお話があった。それともう一つ、こちら（西側）とこちら（東側）は、それぞれ敷地は狭いが、両方使うと非常にいいのではないかというお話もあった。ということで、2 回目の話は以上である。

3 回目の前回は、ここでは皆さんと、町民のための庁舎をどうつくっていくか、その中で、併設が期待される施設、それから隣接が期待される施設ということで、それぞれ事務とか交流とか、医療とか交通とか、そういうお話が出てきた。隣接はということも、文化、交流、防災、公園、観光、産業とか、個々の施設を具体的に話していただいた。それをまとめると、図書館・美術館等の文化施設を充実したい。それから、公共交通拠点施設等を充実したい。防災機能を備えた交流施設がほしい。それから、四万十町の観光・産業を P R できる施設がほしい。住民活動を支援するセンターを併設したい等の意見が主に出てきている。

2 回と 3 回の結果から話すと、まず緑林公園を庁舎建設候補地とすると、新しいアプローチ道路が必要ということと、運行バスが必要となるのが前提ではないかというお話が出ている。こちらについては、西側と東側を同時に利用できれば、利便性が高くなるのではないか、ということである。3 回目をまとめると、新庁舎を計画するにあたり、交通拠点をはじめ、多くの施設を併設・隣接することが必要となるということである。そういう形から 2 つの案をあげてみた。まず、お手持ちの資料の中に、2 回・3 回ワークショップの結果よ

り、という資料がある。まず、順番でA、B、C、Dとつけていたのでその順で行くと、窪川駅舎複合案。西側と東側を同時に使った場合どうなるのかと。この場合、駐車台数は確保できる。その代わりに、地下駐とかそういうものが不必要になる。それともう一つは、黄色い部分、近隣。ここは、周辺整備可能地。ここについても、役場の方が、JR四国の方に話に行ったり、くろしお鉄道さんとか高南観光さんに、こういう傾倒があった場合どうなるか話したところ、協力するという話はいただいている。民地もある程度その可能性があるという話があるようだ。その場合、1つは東西を結ぶ歩道橋が必要条件となる。皆さんも拠点繋ぐ場合、そういうもの（歩道橋）で結んだらという意見もあった。それぞれの土地の補償などを含めると約4億5,470万。歩道橋、行政用語では自由通路というが、それが約1億2,000万程度かかる。それを合わせると5億7,470万程度必要となる。

この前の話で、この（緑林公園）土地の特性を話したいと思う。駐車場の下に暗渠が通って入っている。国道側にアプローチを作る場合、いろんな考え方があるが、ここが馬の背中のように一番狭くなって、基本的に造成もされているということで、ここ（窪川高校グラウンド東側）のところがちょうど海拔220m、でこちら（道路）が210mということで、これを結んだ場合、この部分の勾配が約10%程度になる。これは交差点のつけかたも色々あるが、まっすぐに基本的には道に対して直角にということを考えて、今のままだと10%程度。それと緑の部分が、法面とか山を切るために、というのは窪川高校のグラウンドなので、こちらのほうに広げた場合、これも片側に歩道をつけて10m50cm程度の幅の道路を設けた場合、全部で6億5,900万程度の造成・土地取得ということになる。ここで、1つこちら（窪川駅複合案）の土地の取得について、ある程度JA・JRの協力は得てはいるが、こちらの部分はかなり民地が含まれている。これはまだ交渉をしていないので、この後どうなるか、もし売らないということになれば期間的な事も問題に起こるのではないか。もう1つは、作り方にもよるが、かなりの法面が生じる。それによる緑林公園の雰囲気はどうなるのかという問題もあると思う。先程も説明したように、ここに暗渠が入っているためにある程度配置の制約を受ける。それともう1つは今日併設・隣接する形の建物の規模が、可能地をどう利用するかという話になる。こちら（緑林公園案）についてはある程度、近隣となる緑林公園の公園部分を利用しないといけないということになる。これが2回目、3回目の話になる。

ここで自由通路について話したい。自由通路とは、既存の停車場内に駅の鉄道と交差し、専ら歩行者、電車の交通に要する道路または通路を言う。よく駅の構内にかかっているようなものを見にいくと、昔あったように歩道橋的なものを自由通路と言う。形態として2種類ある。自由通路があつて駅のちょうど線路の上に駅舎がかかっているような形、これも自由通路のひとつとして駅舎のためだけであれば自由通路にはならない。ただ町の南側や北側を一体的に使うという意味があれば自由通路ということになる。もう1つは駅舎と離れた形で、歩道橋のみだけで建設する場合、駅が形に残っていても自由通路として作ることができる。実例として、くろしお鉄道のごめん駅。ちょうど入り口の上に駅がある。ホームがあり、ホームから階段をあがって行くとちょうど駅があるという。よく都会の方ではよくあるが、高知では実例が少ない。

委員：すみません。質問はしてかまいませんか。

大谷会長：そうですね。スケジュールがありますがどうぞ。

委員：今までの部分でいくつか疑問に思う部分があったので、どこで聞こうかと思いながら話聞いていました。自由通路、充分分かるのですが、私は2回目は出席していないのでわからないのですが、駅へ建てる時は駅の西か南か北かわからないのですが駅に建てる時レールの上に建てるのはどうですかと話をしました。庁舎と駅も一緒に、セットに、というのが一番いいのではないかと。JR四国も身障者さんとか障害者さんとかのエレベーターをつけなければならないがとてもそんな予算がないのが現実ですので、もうこの際、駅庁舎自体が相当古くなっているので、セットにしてその辺を話したらどうですかという提案は何度もしたつもりなのですが。

大谷会長：はいわかりました。それを今日やりましょう。

委員：今の話だと全然そこの論点はなしで、自由通路の話の説明に入られたので。

大谷会長：それは、ちょっと時間がなく申し訳ないですが、それを含んで今日のプランを考えましょうということです。他に質問はありますか？

委員：それともう1つすみません。役場庁舎が、一番最初のところで出てきたように、みんなのための庁舎にしたいという意見が中心的な話だったと思いますがけれども、基本的に役場へ住民はそんなに行くものではないと私は考えているのです。できれば緑林公園であろうが、駅であろうが同じように考えると、役場を新しくする目的みたいなものをもうちょっと明確にしないと話の結論が出てこないのではないかなという気がしますが。

大谷会長：僕はちょっと最初の方違うと思います。例えば十和や大正の方が役場に来ないといけない時、交通に対する利便性は大きいと思うし、やはりそれはそれで重要であると思います。どこにあってもよいという話ではない。前回話したが、日本では庁舎と言って職員がいる場所となっていますが、ヨーロッパで言えばタウンホール、タウンセンターであって市民の中心である。今後そういう形で庁舎は考えていく必要があるだろうと思っています。それと何回かしか来ないというのは多分、住民票を取りに来るとかということだけしかないのかもしれないけど、これからは例えば、共同という言葉がよく使われますが、市民と一緒にやる活動であったり、あるいはNPOの活動であったりを含んで、より必要とする機能を周辺に作ることによって、人が来る、あるいは人が来ることに意味がある施設にしたいというのがみんなの庁舎のスローガンの1つなのだろうと思っています。町の庁舎を作る目的は、合併する時に話し合われた内容だと思いますが、多分今言ったような

話だと思います。意見を遮って申し訳ないですが、皆さんの前にあるのは、駅の両側を使っている図面です。ではなぜ、緑林公園のほうではないのかはある意味では今回抜きで。というのは第3回で出た必要だと思う近接したらいいなという施設、あるいは併設したらいいなという施設等をこの敷地を使って入れてみるとどんな感じになるのか、あるいはどのくらい不足したり、どういう空間にできるのかを今回やってみてもらおうと思っています。さきほど、ご意見があった人のように、これは線路の上を人口地盤にしないとうまくいかないと思いますが、広い人工地盤を作って上に庁舎、駅舎を建てるということだったので、この計画で、いろんな案を作ってみてくださいというのが今回のワークショップ。少し事業費だけ簡単に説明しますが、窪川駅案の方の5億7,000万ぐらいの話は、さきほどのこちら（資料）で言うと地下駐車場を作らなかった時のJR・JA等の所有地を取得したりする費用プラス、自由通路の建設費を足した額、それに対して下の6億5,900万はこちら（資料）に書いている6億5,900万と同じで、道路を作ったり代替の駐車場を作ったりする費用です。こういうのを見ると、額だけの問題ではないですが、窪川駅の方が安くなっている。ただし、道路のルートは色々あるだろうという話があると思うのですが、多分若竹の方では直接結ぶ、あるいはトンネル案よりも、安くてなおかつ1番うまくいきそうな所をとって見たっていうのを含んだ額だと理解していただければと思っています。多分ここが1つのヤマですから、ここを理解していただいた方がいいと思うので何か質問がありましたらお願いできればと思います。

委員：1ついいですか？今回で第4回目なのですが、ワークショップというやり方をとっていらっしゃるのですが、いま候補地がAからDまでありますよね。順位を出し若竹さんの今までの調査した結果をもとにして金額を出してくれていると思いますが、そのデータをもとに町民が説明を受けながらワークショップの上で例えば道をどういうように抜くっていうのを金額をはじき出してもらえたらもっとよかったのだろうと思うのですが。

大谷会長：たぶん、僕はやるとしたら2案ぐらいしかないと思っています。もっと直接的に抜く分とね。

委員：特にDの緑林公園ですが、僕らからしてみたら全くこういう風に道を抜くというイメージがなかったので、こういう金額が出たところで全く参考にならないかなと思います。

大谷会長：僕自身はなぜこの道路を抜かないといけないのかというのは、大きくこのワークショップで出た意見があったということと、中心市街地から外れる、それをもっと接近させたい、あるいはダイレクトにいきたいということを踏まえると、どういう道路を建設するか、どこに建設するかは別として作る必要があるというのがあります。今の回ってくるようなやりかたで、この問題点は既存の街に対して離れてしまうのをどれだけカバーできるかは交通という手段でないと近接できないわけですよ。そのためにはこうしないとい

けない。そのルートは別として。ただし、金額だけでこっちがいいという話ではなく、金額が判断の1つであると思います。金額が上だからこっちがいいという判断はまだ出してない。それは次回少し議論しましょう。次回の審議会で、ということにしております。ですから今回、今日が本来、候補地を決める予定でしたが、もう少し皆さんが具体的なイメージをもった中で決めたいと思っています。それともう1つは、やはり街というのは歴史的な継続性があるって、街をどう今後良くしていくかという視点から場所を考える必要があると思います。そういう意味で言えば、窪川の先祖代々から作ってきた町は道路が狭かったりするけれど、でもそれはある意味では空間の履歴として物事が積み重ねてきた街なわけですから、庁舎をどこに置いたらもっと良くなるかという視点で判断することもありうるだろうと思います。

委員：今言われたその導入部のイメージはまちづくりのイメージですよね。今日は窪川駅でやりますが次回は緑林公園でもう1回するのか。

大谷会長：いや、面積的には緑林公園で近接すべきものであったり、より何らかの形でもっと使うべきものというのは、今の公園のある部分を使わざるを得ないと思うのです。だからそういう意味では、ボリュームをちょっと確かめると言うことをここでやりたいなということです。

委員：元々、街を形成するというのは周辺の産業や経済や文化や歴史の中から、今の街というものが形成されるということですよね。やはり、そこを中心に庁舎というものを考えるのが、基本的に思考をしていく時に、そういう発想がまず1番最初にないといけないと僕は思うのですが。長い歴史の中で、今の窪川町という、将来どう変わっていくかは分からないので固定的に考えてもいけないと思いますけれども、長い歴史の中で形成された街というものが、ちゃんとそれをお互いが理解しあった上で、そのために庁舎がどうあるべきなのかということが、基本的には考えるべき発想の第1ではないかと僕はそんなふうに思っています。そうすると、いろいろと案があるようだけれども、やっぱりそのまちづくりの今まで長い間でできあがってきた街の中心と言いますか、そういうあたりが、利便性のいいところへ建設する。私は十和ですから、もっと新しいところへやってもらっても、という考えもあるかもわからないけれども、しかしやっぱり地域全体の事を考えた時に、長い歴史の経過の中でできあがったまちづくりというものと、ふまえて考えないと。

大谷会長：人間の今生きているのは、大きな意味ではバトンタッチの時期をきているわけですよね。おじいちゃんおばあちゃんからおふくろがいて、僕がいる。けどまた僕の子どもがいてというつながりの中であるのと同じように、街もそうだと思うのですよね。その中でどうあるべきかという議論だと思うのです。この窪川駅周辺複合案も緑林公園案も、どちらでも同じだと思います。ただし違うのは、ある意味では緑林公園（案）をつくるというのは、新しい街をこちらにつくろうと言う意思をきちっともって本当は大きな位置づけ

をもたないといけないのかもしれないのです。

委員：僕は同じとは思わないです。恐らく、緑林公園へ新たに庁舎を作ったら、また外へ飲食店がというものが、そういう投資の経費も考えたら、今ある街を重点に考えて、新たに商店をつくったりと、おそらくなると思いますけれども。同じではない。

大谷会長：緑林公園は、ある意味では将来に向けてそちらに新しい街をつくります、だから既存のまちはもうどんどん捨てますという意志がきちっとない限りはなかなか選択しづらいです。すねということを僕はしているのです。

委員：緑林公園と同じじゃないでしょう、それは。その考え方として、先ほど言ったことと。どういう意味ですか？同じというのは。アクセス道路造らないといけないとか、拡張しないといけないとか・・・・・・・・

大谷会長：街を将来どうするか、という点では同じなのですから。

委員：同じとは思いませんけれども、それは。

大谷会長：分かりました。すみません。

委員：すみません。かまいませんか。今やるこの駅前ですよ、これは緑林公園に関してとか現庁舎地に関しては、どうやったらいいのかというのはやらないのですか。駅前だけに関して今日みたいなこれ（ワークシート）を作っているのですか。駅前だけではなしに、現庁舎地なり緑林公園に関しての配置図関係のことはやらないのですか。

大谷会長：本当に必要だという話があるのだったら、やってもいい話です。

委員：それはやらないと。

大谷会長：いや、そんなことはないです。ちょっと聞いてください。やらなくていいと思う僕の理由は、第3回案で出てきている近接・隣接すべき施設であったり、併設すべき施設というのがあるわけですが、それをボリュームとして入れてみましょう。そうするとたぶん、第3回案で出てきたものの全ては入れられなくて、選択せざるを得ない。この（ワークシート）面積のボリュームと緑林公園の面積のボリュームはほぼ同じです。地形は違うけどほぼ同じです。ボリュームの問題として、少し検討しましょう。

委員：いつも行政は常にこういう風に決めつけてかかっている。これ（駅前広場）だけしかやらないのですよ結局は。これに決めつけてしまう訳ですよ。仮に新聞に載ったらこれで

いきますって形になっていしまう。やはり、やるのだったら、現庁舎も含めて3案ぐらいはやらないと、このままいくと決まってしまうような形になる。そんなに皆も思うと思うのですが。

大谷会長：僕は現庁舎案は、これまでの第2回ワークショップで基本的にはないという風に判断しています。

委員：ではD案（緑林公園）は。

大谷会長：D案はあると思います。

委員：ならD案もこういう風（ワークシート）にやらないと。

大谷会長：ですから僕が言っているのは、言っている事を踏まえて1回これ（ワークシート）をやして下さい。僕はたぶん大丈夫だと思っているのです。

委員：そしたら言い方を変えるのですが、順位を決めて点数も決めましたよね。80.2点の緑林公園が何故ここにはないのですか。どういうのをもって駅の図面を持ってきたのですか。

大谷会長：今、説明した通りです。ただし、この点数になるにはこのような問題を解決するということがあって、ここがいいですということになるわけですよ。そうすると、問題を解決するための、例えば、いろんな土地を買ったりするということをやると、このくらいの費用になりますということですよ、これは。

委員：どうしてもこれを見た場合、行政がいきなり入ってきたという。元々、前田町長はここ（駅前）には役場を建てないと言いきっていたのですよ、議会では。言いきっていたところに今建てようとする無茶苦茶な話もありますが、いつの間にか駅の東も西も一緒になったというのは今日初めて聞いたのですが。そんな話はほとんど煮詰まっていないわけです、前回3回までで。一緒にやるという話は全然出ていなかったわけです。

大谷会長：どこも煮詰まっていないという意味では、そうなのです。だけど、僕は、2回目、3回目をやった経緯の中でもうちょっと具体的なイメージをもたないと、リアリティをもたないだろうということなのです。かつ、第3回目で重要だったのは交通拠点施設をもった方が良いという意見が多かったのですね。だからこういう意見を重視するのだったらここ（駅前）だろうということをやっているのです。ただし、絶対ではないわけです。具体的なボリュームイメージをもったりしてほしいというのが、ある意味では今回の位置づけです。

委員：わかりますが、緑林公園にしても、もっと向こう（緑林公園中部分）を切り取ってもいいわけですよ。その進入道路のつっかけに真っ直ぐ切ってもらいたいわけですよ。そういうボリュームの作り方もあるのではないですか。

大谷会長：ですから、さきほどの道路の問題は、真っ直ぐに切るということはできます。でもすごくのり面が広くてこのお金では収まらないようなもっと高いお金になります。

委員：それは試算されているのですか。何万㎡ですか？何万㎡？

大谷会長：それはもし試算していないとしたら、試算していなくても構わないのですが、当然高いです。

委員：土工とRC・鉄筋でつくるのとではえらい違いなのですよ、金額は。RC・鉄筋で一階ふえるのと土工で切り取るのとでは全然ちがう訳ですよ。土工、山を切るということはもう壁はいらない訳ですよ。今の高速道路と同じように切ったら、切るだけの費用なのですよ。

大谷会長：切るだけの費用で、今これはやっているのです、こちらの道を。

委員：だからちゃんとデータが出ないと分からないという、真っ直ぐ切った時の。

大谷会長：今の意見も踏まえて、次回にそれをやった結果として議論して決めたいなと思っています。いま言われたような話は再度、宿題としてお願いできればと言うふうに思っています。厳しいのですが、よろしいですか。候補地を決めるということではないということをお腹に銘じていただければと思います。いいですか。

委員：それでいいですよ。

大谷会長：それではワークショップのやり方を1回お話しします。全体を考えていただいた後やりながらということで、お願いします。

（若竹まちづくり研究所スタッフより、説明あり）

委員：ちょっと質問、いいですか。ここで第1期とか第2期とか書いてますよね？これはこだわりの必要はない？例えば個人的には、議会棟は第1期に作る必要は無いと思っているんですけど、とかいうのは構いませんか？議員の人数も今ほど要らないし、議会室なんて要らないから皆が使えるスペースでやったらいいじゃないか、っていう。議員人数はまた変わるかもしれないし。だからこれ何で第1期に入れないといけないの？っていう疑問が

あるんですが。

若竹スタッフ：はい、素晴らしいご意見だと思います。ただこれは、当初の基本構想の中から一応、数字を頂いてますのでそこに内容としてちゃんと盛り込まれているものとしてとりあえず手順を踏んだ項目で面積を使わせてもらっています。

大谷会長：皆さんのテーブルの意見で、議会棟は小さくしましょう、3分の1にしましょう、4分の1にしましょうというのは、(方眼紙を)切ってください。それでこういう理由があるというのを書いてください。

(若竹まちづくり研究所スタッフより、説明の続きあり。)

(その後、各チームでワークショップを行ないました。)

～各チームの発表終了後～

大谷会長：はい、ありがとうございました。同じ敷地でも皆さんから色んなアイデアが出てきたと思います。実現可能性をすべてチェックするというのは難しいという点もあると思いますが、でも全部できない話ではないと思いますね。共通点もだいぶ出てきたなあと多分、感じていらっしゃると思いますけれど、最初に申しましたとおりこのぐらいの敷地を使って入れるとしたらどれぐらいのボリュームになるかというのが、漠然と以前はあったのに対して、ある程度はっきりした。例えば駐車場ってわあ大変なんだね、っていう。だから職員の人はいかかわいそうですけれど、ここには作らないなんていう意見も出ていましたけれども、それも含んでボリュームっていうのはある。あと議会のほうは議場要らないなんていう話もありましたが、それは上手く会議室なんかを町民がよく使えるようなシステムにどうするか。で、議会棟と言っているけれど議会棟の名前をもっと良いように変えてもいいかもしれない、というような話も含んであるんだと思うんですね。で、最初のほうにお話がありましたようにここでやってみてボリュームのイメージがついたらと思ったんですが、この緑林公園も同じようなことをやる必要があるだろうということがありますので、次回は……。今回は初めてだったんでちょっとまごついたところもあったかと思いますが次回は多分、さっさと行くと思いますが緑林公園のほうで、少しこれと同じ事をやってみる。そうするとこっちでやったのと緑林公園でやったのと両方の案があって、それを少し皆さんで議論して候補地を決めたいなと考えておりますので、次回ぜひ、今回参加された方、ぜひまた参加していただければと思っています。今日はどうもありがとうございました。